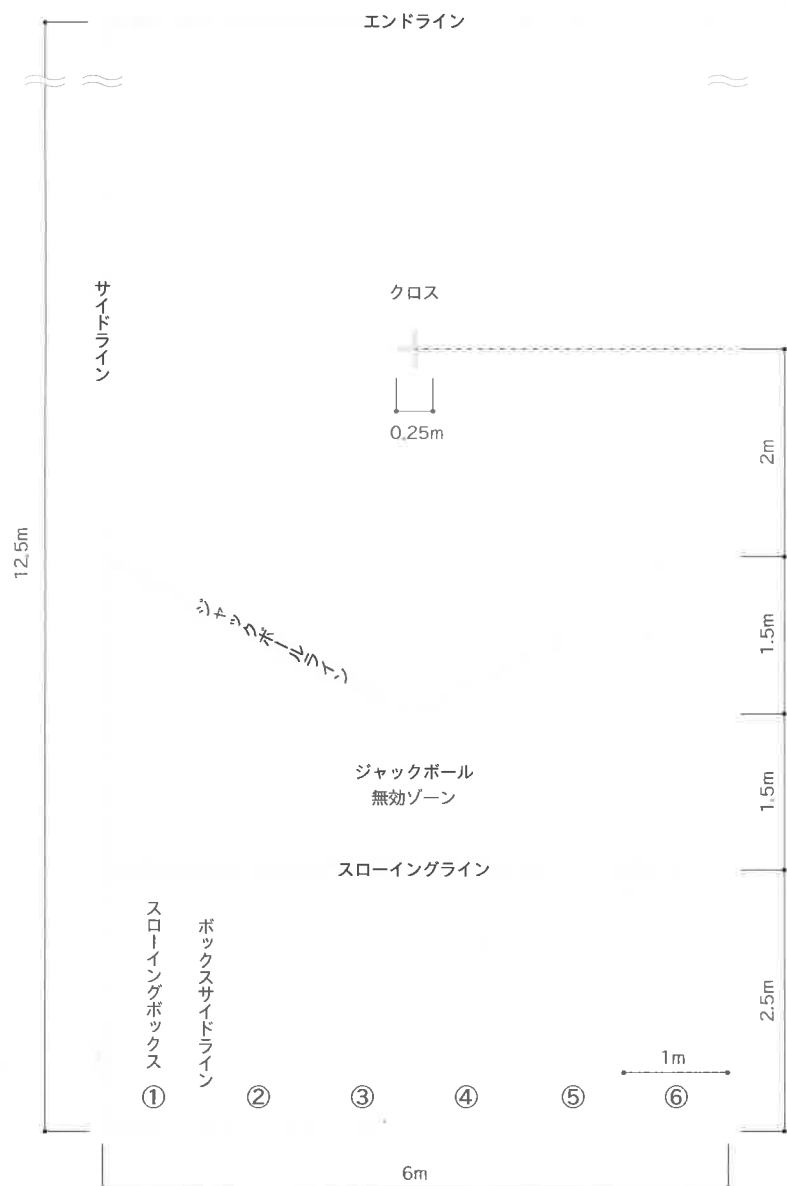


# ポッチャのルール概要

## ポッチャ公式コートサイズ



## 障がいのクラス分けと競技種目

BC1~BC4の4クラスがパラリンピックなどの国際大会対象者です。

クラス	対象	投球	アシスタント	種目	説明
BC1	脳原性疾患	○ (足蹴り可)	○	個人戦 チーム戦	●車いす操作不可で下肢・体幹に重度のまひがある選手 ●下肢で車いす操作可能で足蹴り競技する選手
BC2	脳原性疾患	○	×	個人戦 チーム戦	●上肢で車いす操作がある程度可能な選手
BC3	脳原性疾患・ 非脳原性疾患	勾配具を使用	○	個人戦 ペア戦	●最重度の選手が該当するクラス ●自力による投球ができないため ●聴覚アシスタントによるサポートにてランプ(※1)を使用し競技を行う
BC4	非脳原性疾患	○	△ (足蹴り選手のみ可)	個人戦 ペア戦	●頸髄損傷や筋ジストロフィーなど、BC1、BC2と同等の重度四肢機能障がいのある選手

※1 ランプ：ボールを投げる事ができないB3クラスの選手が使用する勾配具のこと

## 日本独自のオープンクラス

BC1~BC4に該当しない場合でも参加可能な日本独自のオープンクラスです。

### ● オープン座位

BC1~BC4に該当せず座って投球する選手で車いすの有無は問いません。

### ● オープン立位

オープンクラスの中でも立って投球が可能な選手です。(片麻痺や下肢の骨関節疾患など)

## ポッチャ競技ルール

※ コイントスやジャンケン等で赤・青チームを決め、ゲームを始めてください。

### 1 赤チームがジャックボールを投げる



赤チームが必ず先行です。赤チームの左端の人がジャックボールを投げ、ゲームを開始します。

※「ジャックボール無効エリア」で静止させた場合や、コート外へ出た場合は、相手チームへ投球権利が移ります。

### 2 赤チームがもう1球投げる



赤チームのジャックボールを投げた人が続けて自分のチームボール(赤ボール)を投げます。

※基準となるジャックボールがコートの外へはじき出されてしまった場合、ジャックボールはコートの中心にあるクロス位置へ戻ります。

### 3 青チームが1球投げる



赤チームが2球(ジャックボールと赤ボール)を投げ終わったら、青チームがボールを投げます。

### 4 ジャックボールとの距離を確認



各チーム1個ずつボールを投げた後、ジャックボールとの距離を確認します。距離が離れている方が次の投球をします。

※コンパスで計測できないほど距離が離れている場合は、お手持ちのメジャー等をご使用ください。※図の場合、次の投球は青チームとなります。

### 5 距離がジャックボールから遠いチームがボールを投げる

これ以降、距離が遠い方のチームが続けてボールを投げます。相手チームよりジャックボールへ近づけることができれば投球交代です。一方のボールがなくなった場合、もう一方のチームが残りのボールを全て投げます。

### 6 各チーム共に6球ずつ投げて1エンドが終了、得点を計算

1エンド終了後、ジャックボールに最も近いボールを投げた側のみ得点が入ります。※下記参照(ボール1個につき1点獲得)



※距離が分かりづらい場合はコンパスなどで判断してください。

※ジャックボールに対し相手の一番近いボールより内側にボールが得点になります。

※どちらの色もジャックボールに接していたり同距離の場合両方の得点となります。

### 7 ジャックボールを投げるチームの交代

ジャックボールを投球するチーム(先行)が青に替わります。エンド数などの詳細は、右図の「試合形式」をご参照ください。

## 試合形式

個人戦	ペア戦	団体戦
赤チーム 1人 VS 青チーム 1人	赤チーム 2人 VS 青チーム 2人	赤チーム 3人 VS 青チーム 3人
1人あたり 6球 持ち球 6球	1人あたり 3球 持ち球 3球	1人あたり 2球 持ち球 2球
4エンドの合計得点を競います ★スローイングボックス ③、④を使用	4エンドの合計得点を競います ★スローイングボックス ②~⑥を使用	6エンドの合計得点を競います ★スローイングボックス ①~⑥を使用
ジャックボール投球順	ジャックボール投球順	ジャックボール投球順
1エンド 0 2エンド 0 3エンド 0 4エンド 0	1エンド 0 2エンド 0 3エンド 0 4エンド 0	1エンド 0 2エンド 0 3エンド 0 4エンド 0 5エンド 0 6エンド 0